

廃炉・汚染水対策福島評議会（第3回）の概要

1. 日時：平成26年6月9日（月） 13：00～16：30
2. 場所：「福島市ビューホテル」（福島市）
3. 出席者：別紙
4. 議事
 - (1) 廃炉・汚染水対策に関する情報提供・コミュニケーションについて
 - ① 前回のご意見等の整理と国の取組について
 - ② 東電の取組について
 - ③ 作業員の声のVTRの上映
 - (2) 廃炉・汚染水対策の現状と今後の対応について
 - ① 廃炉・汚染水対策に関する国の取組について
 - ② 廃炉・汚染水の現況、対策の進捗状況について
 - (3) 原子力規制委員会/原子力規制庁の廃炉・汚染水対策に関する規制活動状況について（原子力規制庁から説明）
 - (4) 自由討議
 - ① 情報提供やコミュニケーションについて
 - ② 廃炉・汚染水対策等について
5. 自由討議での主なご意見

[情報提供について]

- 情報提供のやり方について一定の前進は見られる。ただ1人1人に情報がいきわたるまでタイムラグがあり、国が取り組んでいることが住民に見えていないので、粘り強く継続的に発信していくべき。
- 廃炉・汚染水対策について、ここまで進んでいるという情報を分かりやすく説明していくべき。
- 進捗状況などが分かる形の短期のロードマップを工夫して作って欲しい。
- 住民の説明会の開催など、直接住民に説明して欲しい。
- 海水モニタリングの状況について、どのように受け留めたらよいのかが分かるよう、工夫をして欲しい（発災前との比較、他の原発との比較など）。
- 地下水を飲料水などに利用しているため、風評被害とならないよう、しっかりとした情報発信をすべき。

- 画像や動画などを交えた情報提供をすべき。
- マスコミからの情報が東電からより先に自治体に伝わってくるので改善すべき。
- 原発事故の文化をきちんとした形で残していくべき。
- 総合学習の時間などを含め、それぞれの年齢層に合った授業の中で教えていくべき。
- 地下水バイパスの稼働後の地下水挙動の調査について、継続的な情報提供をお願いしたい。
- マスコミを通じて、女性や子供たちにも、もっと分かりやすい情報提供をお願いしたい。
- 平易な言葉で分かりやすい資料による情報提供をお願いしたい。
- 副読本などについては、どのように授業で使われたのかをきちんとフォローし、しっかりと授業で使われるようにすべき。これについて国や県を挙げて推進すべき。
- トラブルの原因究明をしっかりと行い、対処方法の改善を適切に行うべき。
- 4号機での燃料棒の取り出しや凍土壁など、現場で広く取り組まれている前向きな情報をきちんと発信すべき。
- 本日上映した映像など、収束に向けて汗をかいて取り組んでいるところをきちんと発信すべき。
- テレビなどを通じて、定期的な情報発信を行い、安心感が感じられるような情報提供を行って欲しい。
- 風評で困っているなので、悪い情報だけではなく良い情報も、新聞やテレビを通じてきちんと流していくべき。
- 放射能については、一人一人感じ方が違うので、良い情報を分かりやすく伝えても難しい。きちんとリスクを考えて発信していかないといけない。
- 1mSvの件については、どのようなリスク評価なのか、国の方からきちんと示して欲しい。
- 正確に分かっていることを客観的に情報発信しているのかもしれないが、発信側はリスクをとって発生した事象がどのようなものなのかも含め適切な情報提供を行うべき。東電だけではなく国や自治体もリスクを背負う必要あり。
- 現場で取り組んでいる人たちの思いを共有して、生活環境を守るような取り組みを復興計画に盛り込んでいくべき。
- テレビや新聞で使用されている、3DやCG、図などは、厳密でないのかもしれないが、本当に重要なものを取り挙げて作ってあり分かりやすいので、それらも参考にして、コンテンツを改善していくと良いのではないか。

[廃炉・汚染水対策について]

- 国際廃炉研究開発機構や原子力損害賠償・廃炉等支援機構について、専門家を配置し、世界の叢智を結集してよりアクセルを踏んで取り組んでいくべき。
- 先日のノッチタンクで堰の弁が開いていて汚染水が流出したという件について、昨年8月にあった流出の教訓が生かされていない。梅雨に入ったこともあり、間違いなく取り組んで欲しい。
- 作業上のミスについて作業員の対話などによって作業環境を改善するべき。
- 現場の作業員を増加することだが、中堅的なリーダー人材の育成や研修もきちんと行うべき。
- トラブル防止の事前対応にしっかりと取り組んで欲しい。
- 4号機の取り出しは進んでいるが、3体の屈折した燃料棒などについては、どのように対応していくのか。慎重に対応して欲しい。
- 1号機の燃料棒の取り出しの作業開始に向けて、カバーを外す予定であるが、舞い上がりの影響がないように、気を付けて作業をすべき。
- 凍土壁について、全体の地下水の流れはどうなっているのか。また、電源を喪失した場合は大丈夫なのか。埋設物には、どのような影響がでるのか。
- メーカーなどの縦のコミュニケーションをきちんと行い、熱中症対策などの環境整備をしっかりと行うべき。
- 長期的に技術者の確保をきちんと行っていくべき。
- プラントの中で作業をしている数千人が、本日提示されたわかりやすい資料を共有することなどを通じて、きちんと信頼関係を構築できるようにすべき。
- 地下水バイパスについて、運用目標を徹底的に遵守すべき。また、運用目標を超えた場合の対応についても公開して対外的にきちんと説明すべき。
- 福島第一原発が冷やす機能を失った原因については地震ではないと、規制庁は評価しているのか。
- 現地視察の機会をいただき感謝。現地を見る側も正しく情報発信できるようにしたい。情報の出し手と受け手の間の中間的な存在も必要ではないか。我々も住民説明会などで一翼を担っていきたい。
- 万が一、凍土壁に効果が無かった場合には、どのような対策があるのか。

出席者名簿

赤羽 一嘉	廃炉・汚染水対策チーム	事務局長（経済産業副大臣）【議長】
内堀 雅雄	福島県	副知事
西山 敦	いわき市	行政経営部危機管理室原子力対策課 課長補佐 [代理]
渡辺 清徳	田村市	市民部 部長 [代理]
安部 克己	南相馬市	復興企画部 理事 [代理]
遠藤 智	広野町	町長
松本 幸英	檜葉町	町長
宮本 皓一	富岡町	町長
遠藤 雄幸	川内村	村長
渡辺 利綱	大熊町	町長
半澤 浩司	双葉町	副町長 [代理]
馬場 有	浪江町	町長
松本 允秀	葛尾村	村長
菅野 典雄	飯舘村	村長
石井 浩	福島県商工会議所連合会	常任幹事 [代理]
轡田 倉治	福島県商工会連合会	会長
野崎 哲	福島県漁業協同組合連合会	代表理事会長
安斎 淳	日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会	会長
西本 由美子	NPO法人ハッピーロードネット	理事長
蜂須賀 禮子	元国会事故調査委員会委員	
佐々木 英明	福島県商工会 青年部連合会	会長（オブザーバー）
石崎 芳行	東京電力 代表執行役副社長	福島復興本社代表
増田 尚宏	東京電力 常務執行役	廃炉・汚染水対策最高責任者
小坂 淳彦	原子力規制庁 地域原子力規制総括調整官	
糟谷 敏秀	廃炉・汚染水対策チーム	事務局長補佐
中西 宏典	廃炉・汚染水対策チーム	事務局長補佐
吉田 延雄	廃炉・汚染水対策チーム	事務局長補佐
木野 正登	廃炉・汚染水対策現地事務所	参事官 [代理]
熊谷 敬	原子力災害現地対策本部	副本部長（オブザーバー）
戸高 秀史	原子力被災者生活支援チーム	参事官（オブザーバー）
井上 博雄	原子力被災者生活支援チーム	参事官（オブザーバー）
豊島 厚二	復興庁 福島復興局	次長（オブザーバー）
西田 亮三	文部科学省 原子力課放射性廃棄物企画室	室長（オブザーバー）
森本 英雄	経済産業省 原子力損害対応室	室長（オブザーバー）
小沢 晴司	環境省 福島環境再生本部	副本部長（オブザーバー）